

第 3 次千葉市 DV 防止・被害者支援基本計画での新たな数値目標案

1. 現行計画の数値目標

指標項目	計画当初	現状 (令和 3 年度末)	最終目標 (令和 4 年度末)
どんな理由があろうと暴力は許されないと回答する者の割合	61.0%	68.5%	80.0%
配偶者等からの暴力の相談窓口を知っている者の割合	38.5%	42.0%	70.0%
「デートDV」という言葉を知っている高校生の割合	59.1%	71.4%	80.0%

2. 次期計画の数値目標設定の考え方

- ・ 現行計画の各指標については、一定の進捗は見られるものの、目標値には届かなかった。
- ・ 暴力の内容（身体的DV、精神的DV、社会的DV、性的DV、経済的DV）により暴力と認識している割合には差がある。
- ・ 4割以上の方がDV被害にあっても相談につながっていない。
- ・ 「デートDV」の内容も知っている高校生の割合は半数程度に留まっている。

現行計画の各指標から、DVに関しさらなる深い認識を目指す
数値目標を設定する。

3. 次期計画の数値目標案

	指標項目	調査時点	目標値
1	暴力と考える割合 (1) 平手で打つ、足でける (2) なぐるふりをして、おどす (3) 大声でどなる (4) 交友関係や電話を細かく監視する (5) 嫌がっているのに性的な行為を強要する (6) 生活に必要なお金を渡さない	86.9% 68.0% 65.9% 53.6% 86.0% 69.2%	100% 80%以上 80%以上 80%以上 100% 80%以上
2	DV被害にあった際に、どこ（だれ）にも相談しなかった人の割合	45.5%	30%以下
3	「デートDV」という言葉も内容も知っている高校生の割合	33.8%	80%以上